

1. 経済対策について

- (1) 中野サンプラザ閉館後から新拠点稼働までの中野駅周辺の漸減する経済の補完策について
- (2) 東京都の補助に依存しない中野区独自の商店街や商店等支援策について
- (3) 中野区独自のデジタル地域通貨の早期実現について
- (4) その他

2. JR 中野駅南口の土地区画整理事業について

3. その他（JR 東中野駅のホームドア設置の進捗状況）

令和5年第2回定例会におきまして、立憲・国民・ネット・無所属議員団の立場から一般質問をさせていただきます。3のその他では「JR 東中野駅のホームドア設置の進捗状況」についてお聞きします。どうぞよろしくお願い致します。

1. 経済対策について、のうち、まずは（1）中野サンプラザ閉館後から新拠点稼働までの中野駅周辺の漸減する経済の補完策について、伺います。

中野区内で最も経済の動きが活発なのは JR 中野駅周辺ですね。この経済圏域の消費を分析しますと、平日に大きく積み上がる居住区民やオフィスワーカーや学生の定常的な消費、休日に大きく積み上がる周辺商店街や中野ブロードウェイでの定常的な消費、そのほか、休日を中心に屋外イベントや祭りなどで積み上がる中野四季の森公園やなかの ZERO での特別な消費などがあります。

中野サンプラザでは、レストラン利用やセミナーなどの定常的な消費のほか、コンサート関連や不定期に起きる特需も中野駅周辺の経済圏の中では大きな軸となっていることは明白で、さらには外国人アーティスト、アイドル、往年のアイドル、ヘビメタ、オーケストラ、演歌、演劇など、毎日ジャンルの違う客層が中野に降り立つことで生まれる上乗せ経済が発生するだけでなく、中野サンモールや中野駅南口の商店街などでは、近日コンサートのあるアーティストの楽曲を流したり、コラボ商品を販売したりするなど、近隣商店街の経済は密接につながっています。さらに、コンサート中にアーティストが「どことこのこの食べ物おいしいよね！」などと言うと、そのお店が当日や後日、行列ができるほどの人気店となるなど、特需が生まれてくるのも中野サンプラザの大きな特徴のひとつ、中野ブロードウェイと並んで経済効果は別格であります。

そんな中野サンプラザにまずはお礼を言います。50年間、中野の経済を支えてくれてありがとうございました。

7月2日のラストコンサートまで「さよなら中野サンプラザ音楽祭」などが開催され、そして2029年3月頃から中野サンプラザシティの新しい拠点施設が完成して稼働する予定です。閉館までのカウントダウンはかなり盛り上がっていることは感じられますし、新しい拠点施設には素晴らしいショッピングモールやエリアマネジメント拠点もでき、近隣の商店街などとも連携しながら、きっと新たな経済圏域として大きなプラスのスパイラルを描いていくことと思いますし、カリヨン時計もその時残っていてくれたら嬉しいな、とも思います。施行予定者も、自社利益追求のために一生懸命さまざまな手を打っていくでしょう。

この施行予定者と中野区との間で令和4年に締結された基本協定の第7条（役割分担）には、「施工予定区域におけるエリアマネジメントの推進」という項目があります。「予定区域」とありますので、現・中野サンプラザ閉館から新拠点施設の竣工までの中野サンプラザのない空白の6年間の中野駅周辺のにぎわいを創出し続ける、とも読みとれます。

しかしながら、今、中野区や施行予定者が中野サンプラザ閉館後に実施しようとしているにぎわい創出は、具体的には建物が残っているときに実施する「プロジェクションマッピング」くらいしかありません。このままですと、中野サンプラザを軸とした中野駅周辺の経済圏域は取引高もエリアも漸減してしまいます。閉館が迫っていて待たなしの状態です。今まで中野サンプラザが生み出してきた特殊な経済効果などを理解した上で、漸減する経済の補完策を打つ必要があります。

まず、確実にやらなければならないのは、中野サンプラザ周辺の新たなにぎわいの創出です。周辺にすでにある資源をフル活用し、にぎわいを創出しつつ、雇用を生み続け、近隣商店街の利用促進を図っていく事です。四季の都市の公園やイベント広場、セントラルパークの地下ホールのほか、各大学の大きな講堂や体育館、閉庁後の現・中野区役所、新・区役所など、近隣施設や道路なども規制緩和して、今までには実施して来なかったイベントなどを生み出しつつ、経済効果の上乗せをしていく必要があります。この部分だけの検討を進める施行予定者を含めた特別な検討チームを編成し、細かいイベントなどをロングテール的に生み出し、かき集めて、漸減する経済の補完を中野区主導で行っていくべきだと考えますが、いかがでしょうか？伺います。

➡【区の答弁】中野駅周辺の工事期間中のにぎわい創出は、中野駅周辺エリアマネジメント協議

会による活用が有効であると考えている。この協議会では、令和5年4月に策定したエリアマネジメントビジョンに基づき、具体的な方策やアクションプランや実験的アクションについて検討を進める。検討内容には、既存の資源を活用した2030年までの工事期間中についてのにぎわいの創出も含めていくものと想定する。

総合体育館まで中野駅周辺の経済圏域を拡大して、近隣商店街とのコラボ推進などを、行政として本当に取り組んでいかなければ漸減する経済の補完はできませんので、施行予定者を交えて、早急に検討を進めて頂きたいと願います。

その上で、さらなる2つのリカバリー案を提案いたします。

1 つ目は、令和3年第3回定例会、令和4年の予算特別委員会や第3回定例会など、かねてより何度も強く要望しているバーチャル中野サンプラザの早期実現の提案です。

オープンソース化された中野サンプラザの3Dデータを活用促進し、「メタバース中野」を構築し、その上で中心施設となるサイバー中野サンプラザの早期実現を図ります。過去のコンサートをアーカイブして有料配信するのは著作権の問題で難しいと思いますが、ステージを再現しアーティストがメタバース上で有観客・有料コンサートを行う、セミナールームでの有料セミナーなどを行う、関連グッズの販売などをネット上で行う、後で話しますがデジタル地域通貨の導入も含めて、ネット上で新しい経済を作り出していくことができます。中野サンプラザはサイバー上に残ることになるという区民の心の支え、安心感が得られ、新たな経済圏域も構築できると思うのですが、検討はどの程度進んでいますか？またこの件は、誰がどのように音頭を取って進めていくべきなのかも合わせて伺います。

➡【区の答弁】中野サンプラザの3次元データ化は保存するデータの一定程度の質と李課長のしやすさを担保することを前提に調整を進めていて、来年早々にはオープンデータとして活用できるようにしたい。メタバースをはじめ、3次元データを広く活用されることを期待しているが、一方で文化的価値の保持やシティプロモーションに資すること、また権利関係をはじめ適正に利活用されるよう、中野区がガイドラインを定めて運用していく考え。また、中野区として3次元データを活用する取り組みについては、レガシーの継承とにぎわいの創出の視点から、今後検討を進める。

出来上がったサイバー上の中野サンプラザは、新・中野サンプラザシティが受け継ぎ、リアルと

バーチャルの新旧2つの中野サンプラザが稼働している状態まで持っていかれたら素晴らしいです。

2つ目の対策は、「なかのZERO」の「中野サンプラザ」化を提案します。

約1000人と約500人のホールを有するなかのZERO、西館はほぼ毎日稼働しているようですが、平日昼間の大ホールや視聴覚ホールなどは稼働率が低いように思います。利用は格安で、多くの区民も展覧会やイベントなどで利用していて、中野サンプラザほどランドマーク性はないものの、区民に開かれた大切な区有施設です。

コロナ前の2019年、なかのZEROの稼働率は69%、収入は約2億2800万円と聞きました。稼働率100%なら単純計算で、あと1億くらいは積み上げられます。中野サンプラザが閉館している間、またはそれ以降も含め、2つのホールや集会室などをフル稼働させ、呼んでくるアーティストも幅広いジャンルで中野サンプラザに近づけられることができれば、2000人から1000人に会場は小さくなるものの、隣には500人のホールもあり、大小を同日にダブルでうまく使うなどしたら面白い興行ができるのでは?などとも思います。大物アーティストが中野区内ではないコンサート会場に移ってしまわないよう、なかのZEROで引き続きコンサートを行っていただくなどを行政または指定管理者からアナウンスするなど、しっかりと主体的に手を打っていけば、漸減する経済の補完ができるのではと思いますが、いかがでしょうか?伺います。

➡【区の答弁】なかのZEROは、大・小ホールに加え、多目的練習室、学習室などがあり、区の文化振興と区民の生涯学習の推進を目的として運営している。中野サンプラザとは、ホールの客席数など規模が異なるため、なかのZEROが代替できる事業は限られるが、中野サンプラザの閉館後、なかのZEROの運営目的にそくした事業の実施を興行事業者等に促していく。

また、近隣商店街や、新しく完成する中野二丁目再開発ビルなどとのコラボをしっかりと行えば、更なる経済の上乗せが見えてきます。生み出される2つの公共空地などや、なかのZEROの公園エリアの有効活用、商店街や商業施設などとのコラボを考え、新たな経済や文化を生み出していくための検討を進めていくべきなど、工夫が必要だと考えますがいかがでしょうか?伺います。

➡【区の答弁】中野駅周辺で現在進行中の市街地再開発事業等の中でも早期に開業が予定されている中野二丁目地区の広場等において、中野駅周辺エリアマネジメント協議会の実験的アクションの実施を働きかけていきたい。街のにぎわいや文化、芸術の発信力を高めるため、公共空間での民

間活動等によって地域と連携することで、街の活性化につなげていく取り組みが必要であると考えている。そのため、区では道路や公園等の公共空間の活用についても検討を進める。

この項の最後に、中野サンプラザで下降する経済を減らすことはできないことを考えると、囲町東地区の再開発、新中野区役所の建設、中野駅西口改札や南北通路の整備など、中野駅周辺の工事ヤードから歩行者をしっかりと守っていかなければなりません。このことについて区としてどのように考えているのか、また施行予定者などにはどのように申し入れているのか、指導しているのかをお聞きして、次の質問に移ります。

➡【区の答弁】 工事期間中の安全確保については、原則として各事業者の責任において主体的に取り組むものと認識している。しかし、中野駅周辺では複数の事業が展開することから、昨年度、関係事業者や行政所管による事業間連絡調整会議を設置している。この調整会議には警視庁も参加していて、工事に関する情報共有のみならず、安全対策についても調整を行う場所として活用していく。

(2) 東京都の補助金に依存しない中野区独自の商店街支援について 伺います。

今年度、東京都の法人 2 税、2800 億円も上振れしている。これは景気が上振れているのでは？という東京都出納局の考えには疑問を感じます。コロナで支援を受けたものが課税対象となっていて、それを積み上げたものが含まれているはずです。また、今年度の東京都の予算、コロナ経済対策や物価高騰などに起因した予算はほぼない状態です。

プレミアム付き商品券やペイペイキャンペーンなど、いままでは東京都の予算からも交付を受けて進めていた中野区としては、そのような補助がない中での経済対策や商店街応援は予算化されていません。過去最大の予算となっている中、さらにコロナが 5 類になったとはいえ、まだダメージを受けている商店や、エネルギーや物価の高騰に苦しむ区民のために、委員会などで何度も当初予算に経済対策関連を考えてほしいと要望をしました。都の出方を見ていたのはわかりませんが、臨時交付金も見えていた中で、予め予算化しておくべきだったのでは？と考えます。

ぜひとも集客関連支援や商店街集客イベント支援、閉店した居住家屋付き店舗の空き店舗化補助金、老夫婦経営の飲食店も喜んでいました店のキャッシュレス推進、外国人観光客インバウンド対策支援などを進めて頂きたいと考えます。新宿区なども独自予算でさまざまな経済支援策を行っ

ています。区も先ほど挙げたメニューなどを独自で予算をかけて進めて頂きたいと考えておりますが、いかがでしょうか？

→【区の答弁】中野区では現在、商店街キャッシュレス普及キャンペーン事業や、商店街街路灯撤去事業をはじめとする区独自の商店街や商業振興策を展開している。区としても、商店街や商業振興は重要課題であると認識していて、本年度中に策定予定の中野区産業振興方針を議論する中で、新たな区独自策の必要性やその内容を検討していきたい。

さらには今年度、経済支援策として、区民向けのキャッシュレス決済のキャッシュバックキャンペーンも行うべきと考えますが、いかがでしょうか？伺います。

→【区の答弁】物価高騰対策として、より多くの区民や事業者に還元できるよう、現在複数の決済事業者によるキャッシュレス決済ポイント還元事業の実施を検討している。

もし昨年同様のキャンペーンを実施頂けるのであれば、いくつかの課題、例えばペイペイだけでなくマルチペイ事業者の決済も使えるようにできたらなお良しです、ということで続きまして

(3) 中野区独自のデジタル地域通貨の早期実現について 伺います。

令和4年の第3回定例会でもお話ししていますが、デジタル地域通貨、いわゆるご当地ペイの必要性につきましては、キャッシュバックキャンペーンを実施する際、区の一般財源を当てるわけで、それが区民のみに還元される形をとるにはこのご当地のデジタル地域通貨が必須となります。

中野区独自のデジタル地域通貨の実現方法、イニシャルやランニングがどのくらいかかるのかなどを検討してみたいかがでしょうか？と、何度も質問をしてきましたが、今回の区長の行政報告で、検討に着手するとのこと、高く評価いたします。ありがとうございました。

渋谷区での「ハチペイ」関連予算は、今年度は約4億円です。現時点で利用者数は80000人（8万ダウンロード）、利用可能店舗は2500店と聞きます。様々なキャンペーンで利用者を獲得できる、デジタル商品券の機能もカバーし、NFCタグでのタッチ決済などもできるなど、素晴らしい機能を多く持ち合わせているのと同時に、問題もいくつか上がっています。

例えば、店舗が検索し辛い、全角文字が検索し辛い、利用可能店舗が登録制となるので全店舗使えるわけではないなどが問題です。

以前、ご当地のデジタル通貨の早期実現を要望した時の区の答弁としては「デジタル商品券の検討を進め、その後デジタル地域通貨の検討も進める」とありましたが、ハチペイはデジタル商品券の機能も有していることから、一足飛びで実現できます。すぐにでもデジタル地域通貨の機能要件を固め、予算を付け、開発に着手すべきと考えますが、いかがでしょうか？伺います。

➡【区の答弁】 デジタル地域通貨は成功事例が少ない一方で、その有効性や今後の可能性の大きさも認識している。先行実施しているデジタル地域通貨の例を参考しつつ、中野区商店街振興組合連合会と協議しながら、次年度予算に向けて、有効なキャッシュレス型地域通貨のシステム構築の検討を進めてい参りたい。

また渋谷区には「ハチペイ」とは別に「ハチポ」というご当地ポイントがあります。地域に役立つことなどを行うとポイントがたまるという仕掛けですが、今のところ「ハチポ」は「ハチペイ」への等価交換はできない状況です。中野区のご当地デジタル地域通貨では、さまざまなキャンペーンができるだけでなく、中野区エコポイントなどの独自ポイント制度もご当地デジタル地域通貨に換金できるようにする、という機能も付加したものとしたいが、いかがでしょうか？伺います。

➡【区の答弁】 キャッシュレス化の更なる進展や区民のデジタル機器の活用状況などを踏まえ、他自治体の先進事例も参考にしながら、デジタルによるポイント活用によって、商店街や地域に新たなつながりを生み出すような仕組みについて全庁的な検討を進めていく。

ご当地のデジタル地域通貨でデジタル決済、デジタル商品券もカバー、ボランティアポイントやエコポイントなどを稼いでご当地通貨に換金できるような、日本初のオールインワンシステムを実現することを強くお願いして、次の質問に移ります。

2. 中野駅南口の土地区画整理事業について 伺います。

まずは、中野二丁目市街地再開発事業および土地区画整理事業について、伺います。2023 年度末には完成し、稼働をします。そして 2025 年度末には土地区画整理事業の完了により、中野

駅南口のロータリーおよびその周辺は、歩道が拡張された南口駅前、横断歩行や信号の位置が変わった中野通り、すべて着岸できるバス乗り場やタクシー乗り場、脆弱だった雨水処理が改善されて水がたまらなくなった道路、市街地再開発事業と連携して生まれた空地や施設へのエスカレーターなどの歩行者デッキができて、一体的な整備が完了するはずですが、

しかしながら、今年 1 月以来、この中野二丁目の土地区画整理事業の報告はなく、最新パースもない状態です。新しい人の動線などを考えるためには、人流の測定などが必須と思われませんが、中野駅南口で、特に朝の時間帯に人流の調査などが行われているのは見たことがありません。中野駅北口の東西連絡通路のエスカレーターは毎朝 8 時半ごろになると大渋滞で、改札出るとすぐエスカレーター待ちの人たちの行列ができてしまっています。

中野二丁目の市街地再開発ビルが稼働し始めますと、近隣の昼間人口が 3500 人から 4000 人増え、夜間人口も 1000 人以上増えると言われておりますし、横断歩道も信号の位置も、車の流れも変わってきます。南口も 8 時半を過ぎると、新たにできるエスカレーターに乗る人の待ち行列で南口駅前すぐのところ人が滞留してしまう恐れが懸念されます。区として、最新の中野駅南口のロータリー周辺がどのような設計になっていて、どのような機能を持たせるのかなどをすぐにでも報告するとともに、想定する人や車の流れなどを早急に調査して、実態や想定に合う形に設計をブラッシュアップすべきだと思いますが、いかがでしょうか？伺います。

➔【区の答弁】南口駅前広場では、バスやタクシーなどの交通の輻輳解消や、高低差のある地形に対応した交通導線の改善が求められており、人々の回遊とにぎわいがひろがるユニバーサルデザインに配慮した東西南北の交通導線の整備を進める。現在、道路管理者など関係機関と協議調整のあと、9 月ごろを目途に地域との意見交換会を行っていきたい。

しっかりと情報を掴み、調べ、工事期間中は安全な歩行空間を担保し、よりよいまちづくりを進めて頂くことを望みまして、

次に、中野三丁目の土地区画整理事業について、伺います。

中野駅西口改札が 2026 年 12 月に完成し、西口改札前の南北通路が、公募により決定した南側の桃園広場につながります。桃園通りやレンガ坂のような地域だけでなく、エレベーターを有する西口は多くの人たちが首を長くしてこの完成を待ち望んでいます。そしてその完成と同時に以前も

質問しましたが、JR 中野駅の中野通りガード下、南口の中野通りから西側線路沿いの石積み部分などが取り残されます。新たに整備される光の部分とは対照的に生まれる影の部分明るくする、きれいに整備するなど、このあたりを改善すべく、JR 東日本に対して整備や是正の要望を根気よく出し続けて頂きたいと考えますが、いかがでしょうか？伺います。

➡【区の答弁】中野通り鉄道高架下では、これまでも歩道が暗いといった課題が指摘され、その都度東京都建設局第三建設事務所と共有し、照明を変更するなどの対応を行ってきた。また石積み部分では、コケや草などが生えている、暗いなどの現状について、JR 東日本に対してその改善要望があった旨を申し伝えている。中野通り高架下ほかの改善に向けて、それぞれの管理者である東京都建設局第三建設事務所や JR 東日本と連携し、対応可能な方策を検討したい。

中野三丁目の土地区画整理事業として、地域が一番注目しているのは、桃丘小学校跡地のうち、一番大きな区画の拠点施設がどのようなものが作られるのか、です。平成30年の第3回定例会でも令和2年の第4回定例会でも質問をしていますが、桃丘小学校跡地はURに売却されましたが、UR が土地区画整理事業を行い、さらにどこかの事業者売却し、その企業が拠点施設を建設することだけが決まっていて、実際いつまでに何ができるのかは未だ発表されていないのが現状です。

中野区とURとの間で締結された「中野三丁目地区の整備に関する事業実施協定」の桃丘小学校跡地活用事業の概要等項目第6条の三の(2)に記載されている「利便性の向上及びにぎわい創出のための拠点施設整備」という文言があり、以前もその場所に中野三郵便局の復活や、防災倉庫か備蓄倉庫を作ってほしい、などを要望していますが、実際に区としてURに伝えているのは「自転車駐車を作ってほしい」くらいの要望しか出していません。自転車駐車場も、実はその辺りのお店で働く人たちの要望で、24時間使える機械式駐輪場だったりしますので、この拠点施設への要望をまずは地域住民からヒアリングし、商業施設への要望をURなどに提示できるよう、準備をしておくべきと考えますが、いかがでしょうか？伺いまして、この項の質問を終わります。

➡【区の答弁】拠点施設街区に誘致する施設については、中野三丁目地区の将来像、地域の意向、拠点施設整備、運営に係る事業性などを考慮した上で、区が期待する拠点施設の商業施設や自転車駐車場についての基本的な考え方を取りまとめ、UR 都市機構に伝えている。拠点施設整備に向けた建物用途や規模、および事業の進め方の検討に当たっては、地域の要望に丁寧に対応しながら進めるよう、UR 都市機構に働き掛けていきたい。

3. その他 で、

JR東中野駅のホームドアの設置について伺います。すでにホームドア設置のためのホーム改修も完了している中で、コロナやウクライナ危機で半導体の数が激減して部品調達が遅れているとの報告もありましたが、ホームドア設置の完了はいつとなりますか？

➡【区の答弁】JR東日本からは2023年度中の供用開始を見込んでいると聞いている。

地下鉄を除いて地上の鉄道駅では区内で初めての設置です。待望していた地域住民や利用者の注目度も高く、どうか設置期間中は安全で安心な工事を進めて頂くことを願ひまして、わたくしのすべての質問を終わります。ご清聴頂き、ありがとうございました。